健康づくり計画【第３次】（H24）の進捗状況について

（H24 年 12 月現在）　　保健福祉部健康推進課

No.	施策・事業名 (ライフステージ別)	計画の概要	平成２４年度の取り組み	評価と課題等
1	妊産婦期	① 健やかな妊娠・出産に向けた支援の充実。	●母子健康手帳の交付、マタニティキーホルダーの配布（同時交付） 計画値：年 430 件 H24 年度：240 件（うち再交付２件、双子２件） ●父子健康手帳の配付 計画値：年 430 件 H24 年度：236 件 ●妊婦健康診査費用の公費助成（妊婦一般健康診査 14 回、超音波検査６回、妊婦精密健康診査(必要時)） 計画値：年 430 件 H24 年度：258 件 （双子・再発行分を除く母子手帳交付数＋転入者分） ●その他 ・マタニティキーホルダーの配布（母子手帳交付時） H24 年度：236 人 ・公共施設障害者用駐車スペースを妊婦も共用できるよう看板の設置 H24 年度：11 施設に駐車スペースの看板設置	妊婦健康診査費用公費助成により、妊婦健診の適切な受診と費用負担軽減につながっている。 妊娠届出数の減少により、母子健康手帳交付数、父子健康手帳配布数、妊婦健康診査受診券発行数とも計画値を下回っている。 妊婦が適切な時期に妊婦健診を受診し妊娠中の健康を管理するため、今後も引き続き実施する。
		② 妊婦や家族の学習機会の充実。	●マタニティスクール 計画値：４回コースを年５回実施 H24 年度：４回コース４回実施。 実参加者数 33 人 ●マタニティスクール両親コース 計画値：年４回実施 H24 年度：３回実施/実参加数 34 組 ●その他 ・パンフレット配布、各種サービス情報の提供	妊娠中の生活や出産、育児に関する知識の啓蒙を図ることができた。 近年、生活習慣病への早期対策として妊娠期からの食生活の見直しや乳幼児期からの食育が重要となっていることから、H23 年度よりマタニティスクールの栄養講座の内容を見直し、妊婦と胎児の健康保持および将来の生活習慣病予防を目標として１コース中に２回同講座を実施している。 妊婦が安心して妊娠期を過ごし、出産、育児に

			（母子健康手帳交時） H24 年度：236 件	のぞめるよう今後も引き続き実施する。
		③　妊産婦の不安の軽減やハイリスクの人への支援。	●母子保健推進員活動事業 計画値：訪問活動年 400 件 H24 年度（4～9月）：164 件 ●ハイリスク妊婦把握・支援事業（全妊婦を対象としたアンケートと保健師による面接(または電話による様子確認)） 計画値：アンケート実施 430 件 H24 年度：アンケート回収数 213 件 ●赤ちゃん訪問 計画値：年 400 件 H24 年度：238 件	H23 年度より全妊婦を対象としたアンケートと保健師による面接（又は電話による様子確認）を正式に実施し、妊婦の不安軽減やハイリスク者の把握と早期支援に引き続き取りくんでいる。 妊婦の不安軽減やハイリスク者の把握と早期支援のため、今後も引き続き実施する。
		④　妊婦の仲間づくりの場の提供。	●マタニティスクール 計画値：年５コース（1 コース４回シリーズ） H24 年度：4 コース実施/実参加者数 33 人 ●マタニティスクールクラス会 〈市主催分〉 計画値：年４回 H24 年度：5 回/31 組参加 〈自主開催分〉保健師企画後の自主開催を支援する（会場借用など）。 H24 年度：17 回 ●ふたご・みつごの育児交流会 計画値：年４回実施 H24 年度：３回実施	マタニティスクールやマタニティスクールクラス会では、レクリェーションや参加者同士の仲間づくりにつながるような講座を企画し、妊娠中から出産後の仲間づくりを促し、育児不安の軽減に努めている。また、多胎児交流会で多胎児を妊娠中の妊婦も参加対象としたり、地域子育て支援センターにおいても妊婦対象の事業を行っており、妊婦同士の仲間づくりの機会となっている。 妊婦同士が交流することにより妊娠中・出産後の不安を軽減できるよう、今後も継続して実施する。
2	乳幼児期	①　安心した育児のための相談や支援の充実。	●母子保健推進員活動事業 計画値：訪問活動年 400 件 H24 年度（4～9月）：220 件 ●赤ちゃん訪問 計画値：年 400 件 H24 年度：238 件	核家族化等により育児について不安を持つ保護者が増え、相談支援の必要性が高まっている。各事業の実施により、子育てが始まって間もない保護者の不安軽減への支援ができた。また、一時保育や休日保育、地域子育て支援センター等の各事業も保護者の不安・負担軽減につながっている。 保護者が安心して育児を行えるよう、今後も継

				続して実施する。
		②　育児の学習や交流の機会の提供。	●マタニティスクールクラス会〈市主催分〉 計画値：年５回 H24 年度：５回/31 組参加 ●出前健康講座・健康教育（母子） H24 年度：７回 173 人参加（うち２回は幼稚園児の保護者を対象とした出前食育講座） ●ふたご・みつごの育児交流会 計画値：年４回実施 H24 年度：３回実施 ●地域子育て支援センター（児童家庭課） 計画値：市内３か所で実施 H24 年度：市内３か所で実施 みんなの広場利用人数 延 10,122 人 子育て相談数 延 242 人 ●仲間づくり支援（社会教育課、健康推進課） 社会教育課 ・育児サークルなどの設立や、運営へのアドバイス ・ホームページを活用してサークル紹介 健康推進課 ・マタニティスクールクラス会の自主開催支援 （同クラス会自主開催のうち１年間について市が会場確保） H24 年度：17 回 ●その他 ・育児交流会（年５コース実施） H24 年度：健康づくりのための食育事業の一環として全てのコースで「離乳食講座」を実施。	各事業の実施により、子育て中の保護者の学習や交流の機会を提供した。マタニティスクールクラス会やふたご・みつごの育児交流会では、参加者同士の交流とあわせて地域子育て支援センター利用のきっかけづくりも行っている。 保護者が育児について学習したり、悩みを相談しあえる交流の場を確保するため、今後も継続して実施する。

		③　病気の早期発見や予防の事業を利用しやすい体制で実施。	●胆道閉鎖症スクリーニング検査 　母子保健法施行規則改正に伴い、H24 年度からの検査方法（検査用紙配付方法等）変更。 計画値：年 430 件 H24 年度：236 件（妊娠届出数） ●乳児健康診査 計画値：年 36 回 H24 年度：27 回/市内 4 会場 受診数　実 449 人/延 750 人 ●予防接種 四種混合 34 件（三種混合＋不活化ポリオワクチン） 三種混合　1,038 件（計画値 1,700 件） ＢＣＧ　223 件（計画値 400 件） ポリオ　1,281 件（計画値 950 件） 麻しん･風しん　662 件（計画値 2,020 件） ヒブ　1,056 件（計画値 140 件） 小児用肺炎球菌　1,180 件 インフルエンザ（障がい児）　29 件 ＊不活化ポリオワクチンはH24 年９月、四種混合ワクチンはH24 年 11 月より接種開始。両ワクチン接種開始に伴い、市広報・ホームページ掲載、課窓口や健診等でリーフレットを配付するなど周知を行った。 ＊任意の予防接種であるヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、インフルエンザワクチン（障がい児）について、接種費用の助成を行っている。 ●フッ化物塗布 計画値：年 12 回 H24 年度：実施回数　９回/2 会場 受診者数　実 218 人/延 257 人 ●１歳６か月児健康診査 計画値：年 12 回	１歳６か月児健康診査、３歳児健康診査は大曲会場での実施回数を拡大（年６回）したことにより、大曲・西部地区の方が利用しやすくなった。 乳児健康診査、１歳６か月児健康診査、３歳児健康診査未受診者については、電話や訪問等で状況確認を行い、受診を促している。 フッ化物塗布は、受診者数の減少が課題である。歯科医院でフッ化物塗布を行っている幼児もいるため、実態の把握を行い、実施体制の見直しを行うことが必要である。 病気の早期発見と予防のため、各事業の周知や実施体制の検討をしながら引き続き実施する。

			H24 年度：実施回数　9回 受診者数　実 271 人 （H24 年度より２会場隔月ごとに実施） ●あそび教室（１歳６か月児健康診査事後集団指導） 計画値：年 24 回 H24 年度：実施回数　18 回 参加者数　実 29 人/延 191 人 ●３歳児健康診査 計画値：年 12 回 H24 年度：実施回数　9回 受診者数　実 314 人 （H24 年度より２会場隔月ごとに実施）	
		④　育児支援のため、関係機関との連携を進める。	●子ども虐待予防ケアマネジメント事業 計画値：スクリーニング 400 件 H24 年度：スクリーニング実施 238 件	関係機関と連携しながら育児支援を実施することができた。赤ちゃん訪問等で把握する要支援ケースに適切な支援ができるよう今後も引き続き実施する。
		⑤　訓練や相談の機関との連携を図りながら、個々の支援の強化を検討する。	●こども発達支援センター 計画値：発達相談数 350 件（学童期を含む） 通園児数 105 人（学童期を含む） H24 年度：発達相談数 220 件 通園児数 65 人	こども発達支援センターで事業実施。引き続き実施する。
３	学童青年期	①　病気や障がいの早期発見や予防を行う。	●予防接種 二種混合　573 件（計画値 700 件） 子宮頸がん　285 件（計画値 536 件） 麻しん･風しん　663 件 インフルエンザ（障がい児・者）　20 件 ＊任意の予防接種である子宮頸がんワクチン、インフルエンザワクチン（障がい児・者）について接種費用の助成を行っている。子宮頸がんワクチン接種勧奨のため、市内中学校の全学年女子と市内高校の１年生女子を対象にリーフレットを配付し周知を行った。	病気の早期発見と予防のため、各事業の周知や実施体制の検討をしながら引き続き実施する。

			●子宮がん検診 H24 年度：732 人（成人期分を含む） ●エキノコックス症検診 H24 年度：０人 ●こども発達支援センター 計画値：発達相談数 350 件（乳幼児期を含む） 通園児数 105 人（乳幼児期を含む） H24 年度：発達相談数 30 件 通園児数 14 人	
		② たばこの害に関する知識の普及を図る。	H24 年度：健康情報展、各講演会等でたばこの害に関するパンフレットを配布。	H24 年度は新たな場で思春期の子ども達に対し命や健康の大切さについて伝える機会を持つことができたが、全体の実施数が少ないことが課題である。 学校等の依頼により出前講座等を実施するとともに、当市における学童・青年期の状況把握を行いながら、思春期の子ども達を対象とした事業内容や実施対象の検討を行う。
		③ 性に関する正しい知識普及を図る。	H24 年度：出前講座１回（「生と性を考える」をテーマとして北広島西高 1 年生を対象に千歳保健所と合同で実施。）	
		④ 学校保健など関係機関と連携して、子どもたちに健康について伝える場を作る。	●思春期保健 H24 年度：出前講座１回（「生と性を考える」をテーマとして北広島西高 1 年生を対象に千歳保健所と合同で実施。）	
4	成人期	① 生活習慣病、特にメタボリックシンドローム、高血圧、糖尿病、高脂血症、心臓病について学習でき、予防法を身につける機会を作る。	●健康手帳活用事業 H24 年度：８冊配付 ●健康教室 計画値：年３回 H24 年度：２回 テーマ：高血圧（実５人　延５人） テーマ：LDL ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ（実 19 人　延 55 人） ●出前健康講座・健康教育（成人） 計画値：年５回 H24 年度：８回　１２３人	各事業の実施により、生活習慣病や健康障害予防の知識啓発と意識づけや、自身の健診データから自分の体の状態を確認してもらうことができた。 生活習慣病重症化予防と健康障害予防のため、実施方法を検討しながら引き続き実施する。

			●生活習慣病予防教室（糖尿病予防教室） 計画値：年３回 H24 年度：２回 テーマ：糖尿病（実 16 人、延 43 人） テーマ：LDL ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ（実 10 人、延 27 人） （H25.3 月にテーマ「脳血管疾患予防」で実施予定） ●生活習慣病予防講演会 計画値：年３回 H24 年度：１回 テーマ：「ＬＤＬｺﾚｽﾃﾛｰﾙ」（86 名） （H25.3 月にテーマ「脳血管疾患予防」で実施予定）	
		② 国民健康保険加入者の方の特定健康診査、特定保健指導を目標を持って取組む。	国の補助により受診率向上対策として、電話や文書による受診勧奨を実施。 また、アンケート調査を実施し、平成 25 年度から29年度の５カ年間の目標などを定めた第２期特定健診等実施計画を策定中である。 なお、現在までの特定健診受診者数や保健指導実施者数は次のとおり。 ●国保の特定健康診査（国保医療課） 計画値：8,059 人 H24（１月末） 3,128 人（受診率 27.5%） 参考 ～ H23 3,205 人（受診率 30.5%） ●特定保健指導（国保医療課） 計画値：832 人（高齢期分含む） H24（２月末） 133 人（実施率 51.0%） 参考 ～ H23 139 人（実施率 43.0%）	特定健診実施率は徐々に伸びてきているが、目標受診率には達していない。今後も未受診対策の強化等を進める必要がある。 特定保健指導実施率は、目標実施率を超えているものの、メタボ改善率が 20%程度と低いため、効果の出せる保健指導を目指していく。
		③ 国保以外の健康保険加入者に対し特定健康診査受診を勧奨する。	●特定健康診査を受診するよう周知する 市民（健康づくり推進員）と協働で取り組んだ健康情報展で、健診の必要性を周知した。	今後も、市民が健診を受けられるよう、周知していく。

		④　特定保健指導対象外の人の健診事後相談に対応する。	●成人健康相談 計画値：年 36 件 H24 年度：保健指導　実８０人　延９３人	自身の健診データから、自分の体の状態を確認してもらうことができた。 対象者の重症化予防のため、来所相談できない方に保健師・管理栄養士が家庭訪問を実施することで、より多くの方に保健指導を実施することができた。 生活習慣病重症化予防、健康障害予防のため引き続き実施する。
		⑤　３０歳代の人の健康づくりに取り組む。	●３０歳代健康診査 計画値：年 100 人 H24 年度：39 人	受診者が少ない結果となっている。健康や病気への意識が低いことが原因として考えられるので、若年層への積極的なＰＲに努め引き続き実施する。
		⑥　就労中の年代が実行しやすい運動や食事のとり方を情報提供する。	●ウォーキングマップ作成と活用 ・市内公共施設等に設置し市民に配布。 ・ウォーキングマップ改訂版作成に市民（健康づくり推進員）と協働で取り組んだ。（Ｈ２５年３月完成予定） ●総合体育館事業などとの連携による運動普及	身体活動の基本である“歩く”ことを通して、運動のきっかけづくりができた。ウォーキングマップ改訂版作成にあたっては、健康づくり推進員がマップに掲載するウォーキングコースの選定、マップ内容の検討などに積極的に取り組みＨ25.3 月完成を目指している。 次年度は、改訂版マップの周知をはかりながら、市民が“歩く”機会をつくっていく。
		⑦　がんの予防と早期発見のために、検診を行う。あわせて検診を受けやすい体制づくりに努める。	●胃がん検診 計画値：高齢期と合わせて 1,800 人 H24 年度：698 人（高齢期と合わせて 1,510 人） ●大腸がん検診 計画値：高齢期と合わせて 1,800 人 H24 年度：1,006 人（高齢期と合わせて 1,945 人） ●肺がん検診 計画値：高齢期同検診、結核検診と合わせて 2,000 人 H24 年度：581 人（高齢期同検診、結核検診と合わせて 1,840 人） ●前立腺がん検診 計画値：高齢期と合わせて 350 人 H24 年度：84 人（高齢期と合わせて 247 人）	実施機関と連携を取りながら今後も実施する。

			●子宮がん検診 計画値：高齢期と合わせて 1,500 人 H24 年度：学童青年期と合わせて 732 人（高齢期と合わせて 987 人） ＊H25 年１月より１歳６か月児健診に来所した母親（妊婦健診時の子宮がん検診受診から概ね 2 年経過）を対象に同検診の受診勧奨を実施している。 ●乳がん検診 計画値：高齢期と合わせて 1,600 人 H24 年度：641 人（高齢期と合わせて 1,000 人） ●がん検診・結核検診事後指導 H24 年度：電話勧奨 128 人 文書送付 176 人 ※検診機関の依頼により文書送付している方の中には年齢不明の方もいるため成人期、高齢期の本事業は合わせた人数を掲載。	
		⑧　予防や早期発見のために感染症や骨粗しょう症の検診を行う。	●肝炎ウィルス検診　514 人 ●骨粗しょう症検診 計画値：高齢期と合わせて年 200 人 H24 年度：94 人（高齢期と合わせて 164 人） ●その他 ・障がい者インフルエンザ予防接種　40 人 ＊接種費用助成を実施。	実施機関と連携を取りながら今後も実施する。
		⑨　市民が実践する健康づくりを応援する。	●健康づくり推進員養成、継続研修、活動支援 ・健康づくり推進員養成数　８人 （計画値 15 人） ・健康づくり推進員登録数　５２人 （計画値 80 人） ●健康サークルの結成支援、活動応援 ●健康管理プログラムによる体力づくりへの助言（総合体育館、体育協会）	健康づくり推進員を通して、健康に関する情報を市民に周知することができた。 今後も、市民が健康づくりを実践できるよう取り組んでいく。

		⑩ ライフステージに対応したスポーツ、レクリェーション事業を開催して、市民の健康・体力づくり活動の機会を提供する。（高齢期にも共通）	●きたひろしまエルフィンロードハーフマラソン H24 年度：実施なし（「きたひろしま 30 ㎞ロードレース」を実施。675 人参加。） ●元気フェスティバルｉｎきたひろしま H24 年度：3,250 人 ＊健康推進課が担当する健康横町では、健康づくりのための食育事業の一環として、来所者が一日に必要な野菜量測定と実際の摂取量との比較をするコーナーを実施した。 ●３０キロ歩ける会 H24 年度：108 人 ●歩くスキーの集い H24 年度：45 人参加	教育委員会で事業実施。引き続き実施する。
		⑪ 障がいや病気に関する正しい知識普及や情報提供、学習機会を充実する。	●情報提供 H24 年度：健康情報展、講演会等でパンフレット配布 ●こころの健康講座 計画値：年 1 回実施 H24 年度：0 回（H25.3 月「うつ病の理解と対応」をテーマに実施予定）	各媒体利用と事業実施により、障がいや病気に関する知識の普及を図ることができた。引き続き実施する。
		⑫ 障がいや病気を早期に気軽に相談し、安心して療養が続けられる支援体制を充実する。	●相談指導（来所、電話、家庭訪問など） 計画値：相談指導事業２か所 H24 年度：相談指導事業２か所 ●こころの健康相談（保健所） ●障がい者生活支援センターみらい 計画値：延 7,200 件 H24 年度：相談件数延 4476 件 ●障がい者就労支援センターめーでる 計画値：延 2,400 件 H24 年度：相談件数延 2,364 件 ●相談機関の連携	福祉課で事業実施。引き続き実施する。

5	高齢期	①　要介護状態にならないための事業を行う。 1　認知症や閉じこもりについて学習できる機会をつくる。 2　転倒予防の取組みをする。 3　食事や運動について学ぶ機会をつくる。 4　口腔機能の維持を図る。	●健康増進講演会 計画値：年2回 H24 年度：2回　59 人 ●脳の健康教室 計画値：年2回 H24 年度：1回　実11人/延 200人 ●出前講座 計画値：年30回 H24 年度：14 回　351 人 ●健康運動教室 計画値：年5コース H24 年度：5コース （一次予防　実54人、二次予防　実 13 人） ●介護予防事業（二次予防事業） 機能訓練教室　127 回（計画値：525 回） 実 7 人/延 156 人 水中運動教室　年 3 コース 実 20 人/延 203 人 （計画値：2 コース） (再掲)健康運動教室　年 5 コース、二次予防実 13 人 （計画値：年 5 コース） 口腔ケア事業　　実 0 人（計画値：年 3 人） 生きがいデイサービス　延 1,157 人 （計画値：延 2,100 人）	認知症予防・閉じこもり予防・転倒予防・口腔ケア・低栄養予防等の目的に沿って、各事業のプログラムを組んで、知識普及や日常的に取り組める実践方法を啓発している。 また、脳の健康教室では、H23 年度から活き活き脳トレクラブが結成され活動しており、教室終了後も継続的な集まりや参加者のつながりができている。 健康運動教室では、健康づくり推進員の中から介護予防サポーターを募り、教室やクラス会で協力を得ていることから、一般市民にも介護予防の必要性が根付く活動へとつながっている。 二次予防事業は、対象者の増加とともに、参加数が増えてきている。 今後も、介護予防の理解を広め、事業参加率を高める工夫をし、日常的な実践につながる事業内容を検討していく。
		②　予防や早期発見のための健（検）診を行う。	●特定健康診査（国保医療課） 計画値：8,059 人 H24（1 月末）　3,128 人（受診率 27.5%） 参考～H23　3,205 人（受診率 30.5%） ●後期高齢者健診（国保医療課） 受診数 331 人 （H25 年 2 月末時点でH24 年 12 月末までに受診したことを確認できた分のみ計上）	国保の特定健診実施率は徐々に伸びてきているが、目標受診率には達していない。今後も未受診対策の強化等を進める必要がある。 後期高齢者健診は受診率向上のため、今後も受診勧奨を行うとともにより受診しやすい方法を検討する。 結核検診、骨粗しょう症検診、各がん検診については、今後も実施機関と連携を取りながら実施

			●結核検診 計画値：肺がん検診と合わせて年 2,000 件 H24 年度：465 人（成人期・高齢期肺がん検診と合わせて 1,840 件） ●骨粗しょう症検診 計画値：成人期と合わせて年 200 人 H24 年度：70 人（成人期と合わせて 164 人） ●肝炎ウィルス検診 H24 年度：350 人 ●胃がん検診 計画値：成人期と合わせて 1,800 人 H24 年度：812 人（成人期と合わせて 1,510 人） ●大腸がん検診 計画値：成人期と合わせて 1,800 人 H24 年度：939 人（成人期と合わせて 1,945 人） ●肺がん検診 計画値：成人期と合わせて 2,000 人 H24 年度：794 人（成人期同検診、結核検診と合わせて 1,840 人） ●前立腺がん検診 計画値：成人期と合わせて 350 人 H24 年度：163 人（成人期と合わせて 247 人） ●子宮がん検診 計画値：成人期と合わせて 1,500 人 H24 年度：255 人（成人期と合わせて 987 人） ●乳がん検診 計画値：成人期と合わせて 1,600 人 H24 年度：359 人（成人期と合わせて 1,000 人） ●インフルエンザ予防接種　5,680 人 ＊接種費用の助成を実施。	する。

		③　高齢者の自立や健康維持、高齢者を支える家族や地域の相談が気軽に行える場をつくる。	●総合相談（電話、窓口、訪問） 計画値：電話・窓口分　年延 4,800 件 H24 年：延 15,913 件　＊高齢者支援ｾﾝﾀｰ分含む ●家族支援事業 ・介護講座 計画値：年３回 H24 年度：年3回　延３０人 ・認知症介護講座 計画値：年１コース H24 年度：１コース　実１８人/延３０人 ・介護者交流会 計画値：年２回 H24 年度：年２回　延１０人	個々の相談内容に応じて、医療・介護関係機関等と連絡を密にするよう対応している。今後も高齢者人口の増加が見込まれることから、高齢者が安心して暮らせることを目指し、個々の相談に継続的に対応する。 老老介護や認認介護の状態が増えてきており、介護する家族への支援の重要性も増している。家族支援事業の参加者が固定化していることから、家族のニーズを把握し、事業内容の充実を図る。今後増加する認知症高齢者への対策を総合的に実施していく必要がある。
		④　行政や地域の連携で高齢者の安心で生き生きとした暮らしを支える。	・認知症キャラバンメイト 計画値：年 10 回 H24 年度：認知症サポーター養成講座 ８回 249 人、メイト数 27 人 （H18 年度からの累積認知症サポーター数 2,716 人） ・地域ケア会議 計画値：年３回 H24 年度： 東部地域たすけあい会議　２回 大曲・西部地域たすけあい会議　２回 西の里地域たすけあい会議　２回 団地地域たすけあい会議　１回 ・高齢者虐待防止ネットワーク事業 計画値：相談件数　年 20 件 H24 年度：高齢者虐待相談　１２件	認知症高齢者の増加から認知症への地域の関心度が高まってきており、H24 年度は市民講座としてサポーター養成講座を開催し 35 人が参加した。その後、サポーター養成講座の開催を希望する声も多く聞かれ、認知症について理解しようという動きが広まりつつある。今後も地域支え合いセンターを中心にサポーター養成講座を周知していく。 また、地域たすけあい会議等で関係機関同士のつながりができつつあり、地域の高齢者の生活課題の共有、地域資源の紹介等から、地域で支え合う体制づくりについて検討が深められている。 高齢者の権利を擁護するため、高齢者虐待への対応や成年後見制度等の活用など事業の推進と周知活動をしていく。